

◀34 12 1 「ほろほと」発句短冊（芭蕉自筆・颯翅画）



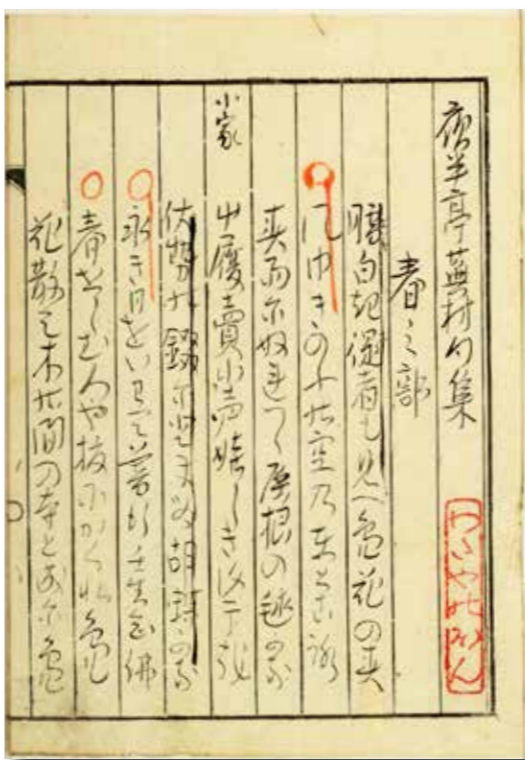
江戸時代中期の俳人蕪村は、夜半亭宋阿に俳諧を学び、のちに夜半亭を継承し俳諧宗匠となります。「芭蕉に帰れ」と唱え、蕉風復興運動の中心人物となり、また文人画家として独自の画風を極め、同時代の池大雅とともに活躍しました。天理図書館では近年、これまで所在が知られていなかった『夜半亭蕪村句集』を新たに収蔵、未知の二一二句が含まれていることが判明し、各紙で大きく報道されました。経済的支援者で門人でもあった寺村百池の家に伝来したそれらの新出資料を収録します。

●第35巻 【解題】牛見正和（天理図書館）  
**蕪村集 一** B5判・約四二〇頁・本体予価三六〇〇円

- 1 夏より三葉社中旬集 明和三五〇七年（一七六六・六八〇七）
- 2 高徳院発句会 明和七・八年（一七七〇・七一）
- 3 月並発句帖 安永三〇六年（一七七四〇七七）・天明三年（一七八三）
- 4 取句法 明和七年（一七七〇）写
- 5 花頂山中高徳院発句会「時雨」句 明和八年（一七七二）

●第36巻 【解題】牛見正和

**蕪村集 一** B5判・約二八〇頁・本体予価三二〇〇円  
夜半亭蕪村句集 安永・天明（一七七二〇八九）頃



▲36 夜半亭蕪村句集

## 高精細カラー版

新天理図書館善本叢書【第五期】

## 連歌俳諧 全六巻

2020年4月刊行開始／隔月配本  
全六巻セット本体予価二〇四、〇〇〇円  
予約募集中！ \*各巻分売可

室町から江戸時代にかけて成熟した「座の文芸」の精髓を高精細カラーで複製！

第31巻（3回配本2020年8月）本体予価三五、〇〇〇円・第32巻（6回配本2021年2月）本体予価三六、〇〇〇円

## 連歌卷子本集 一・二

第33巻（4回配本2020年10月）本体予価三三、〇〇〇円

## 西鶴白筆本集

第34巻（2回配本2020年6月）本体予価三二、〇〇〇円

## 芭蕉集 自筆本・鯉屋物

第35巻（1回配本2020年4月）本体予価三六、〇〇〇円・第36巻（5回配本2020年12月）本体予価三二、〇〇〇円

## 蕪村集 一・二



▲奥の細道行脚之図（第34巻）



▲西鶴「鯛八花ハ」発句短冊（第33巻）

ご予約（セット・分売）  
の方にもれなく  
【2020年カレンダー】  
連歌俳諧の名品  
をプレゼント！



▲集百句之連歌（第31巻）

八木書店  
YAGI BOOK STORE LTD.

※このリーフレットの図版は宣伝用の簡易印刷です。



【発売】

八木書店  
YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ●E-mail pub@books-yagi.co.jp  
●TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300  
●Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/ (2019.10.pp.3,600)



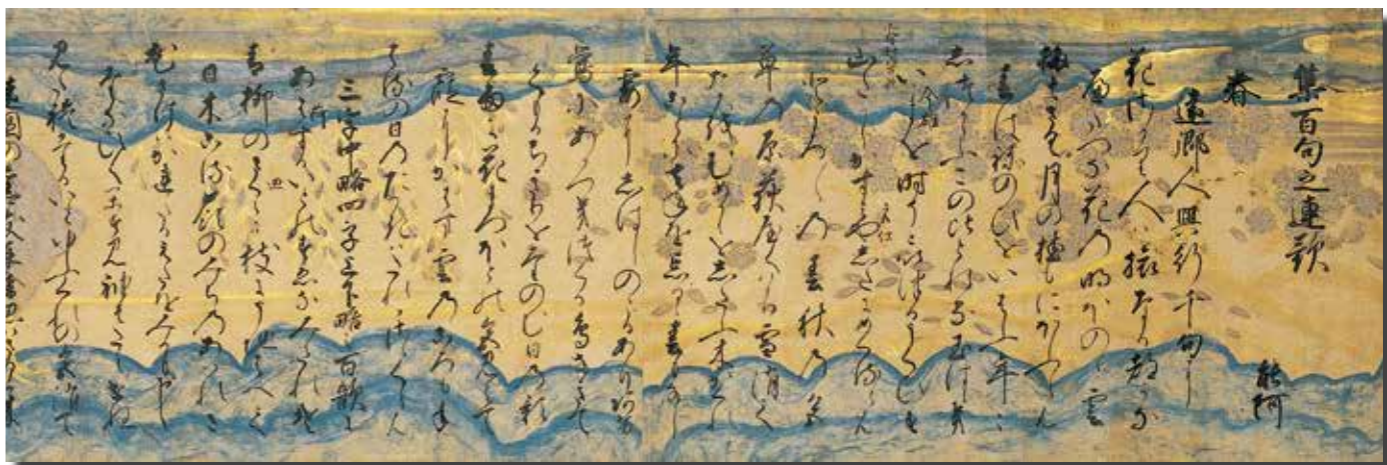
連歌は、複数の作者が和歌の上の句五七五と下の句七七を交互に詠んでいく文芸で、室町時代に全盛期を迎えました。百句続ける百韻という形式が基本となります。連歌の形式から、庶民が気軽に楽しめる俳諧が生まれて江戸時代に隆盛を極め、やがて近代の俳句へとつながります。

●第31卷 【解題】尾崎千佳（山口大学准教授）  
**連歌卷子本集** 一 A4判横本・約二八〇頁・本体予価三三、〇〇〇円

- 1 集百句之連歌 文明元年（二四六九） 能阿自筆
- 2 賦唐何連歌百韻 文明十九年（二四八七） 実隆自筆
- 3 賦何人連歌百韻 長享二年（二四八八） 伝宗長筆
- 4 賦山何連歌百韻 天文三年（二五三四） 天文十七年（二五四八）
- 5 賦浄土要文連歌百韻 天文二十年（二五五二） 紹巴筆
- 6 賦何人連歌百韻 永祿九年（二五六六） 紹巴自筆
- 7 近衛植家惠雲院追善連歌百韻 永祿十年（二五六七） 紹巴筆
- 8 賦何路連歌百韻 永祿十二年（二五六九） 紹巴筆
- 9 賦何船連歌百韻 永祿十三年（二五七〇） 昌叱筆
- 10 賦何船連歌百韻 元龜二年（二五七二） 紹巴筆
- 11 賦山何連歌百韻 天正三年（二五七五） 紹巴筆
- 12 賦何船連歌百韻

●第32卷 【解題】尾崎千佳  
**連歌卷子本集** 二 A4判横本・約三〇〇頁・本体予価三六、〇〇〇円

- 1 経文之連歌百韻 天正七年（二五七九） 昌叱自筆
- 2 賦何人連歌百韻 天正九年（二五八一） 藤孝筆
- 3 賦何垣連歌百韻 天正十年（二五八二） 六月 紹巴筆
- 4 夢想之連歌百韻 天正十年（二五八二） 八月 紹巴筆
- 5 賦何人連歌百韻 天正十五年（二五八七） 三月 紹巴筆
- 6 賦何木連歌百韻 天正十五年（二五八七） 六月 紹巴筆
- 7 賦初何連歌百韻 天正十六年（二五八八） 紹巴筆
- 8 賦初何連歌百韻 天正十九年（二五九二） 紹巴筆
- 9 賦何船連歌百韻 天正二十年（二五九二） 紹巴筆
- 10 初学用捨抄 玄仲筆
- 11 賦山何連歌百韻 慶長二十年（二六一五） 宗因自筆
- 12 賦何牆連歌百韻 明暦二年（二六五六）



▲ 31-1 集百句之連歌 室町幕府8代將軍足利義政に仕え、絵の才能にも優れた能阿が、自作の連歌100句を書いた自筆句集。藍打曇紙に金銀泥で下絵を描いた料紙は、室町時代の工芸装飾紙の粋を尽くしたもの。



▲ 31-3 賦何人連歌百韻 「水無瀬三吟」の通称で知られる室町連歌の代表的百韻で、宗祇とその高弟肖柏・宗長による作品。本書は水無瀬御影堂に奉納された原懐紙か。懐紙三ツ折原装のまま伝来。

『好色一代男』をはじめ浮世草子の作者と知られる西鶴は、当初、俳諧師として名を成し活躍していました。晩年の名品『西鶴独吟百韻自註絵巻』をはじめ、句集、自画賛、短冊、書簡等の自筆資料を収録します。

●第33卷 【解題】大橋正叔（天理大学名誉教授）  
**西鶴白筆本集** A4判横本・約三〇〇頁・本体予価三三、〇〇〇円

- 1 俳諧之口伝 延宝五年（二六七七）
- 2 胴骨三百韻 延宝六年（二六七八）
- 3 西鶴評点政昌等三吟百韻巻（天和頃か）
- 4 夢想之俳諧 天和三年（二六八三）
- 5 西鶴独吟百韻自註絵巻 元禄五年（二六九二）
- 【画賛】
- 6 世継翁画賛／7 「神の梅」発句画賛
- 8 「大ふりや」発句画賛／9 「塩浜や」発句画賛
- 10 「梅に鶯」画賛／11 磯崎松画賛
- 12 西鶴・才麿画賛



▲ 33-5 西鶴独吟百韻自註絵巻

- 【短冊】
- 13 「父ハ花」発句短冊／14 「穴師吹」発句短冊
- 15 「餅花や」発句短冊／16 「夜のにしき」発句短冊
- 17 「御詠歌や」発句短冊／18 「軒下の」発句短冊
- 19 「花を雪に」発句短冊／20 「長持に」発句短冊
- 21 「角樽を」発句短冊／22 「鯛ハ花ハ」発句短冊

- 【書簡】
- 23 西鶴書簡 下里勘兵衛宛 延宝七年（二六七九）三月二十二日
- 24 西鶴書簡包紙 下里勘兵衛宛
- 25 大矢数成就文 下里勘州宛 延宝八年（二六八〇）六月二十日付
- 26 西鶴書簡 下里寂照宛 貞享元年（二六八四）八月二十八日付



▲ 33-6 世継翁画賛

鯉屋物と称される芭蕉関係資料三十五点をすべて収録します。芭蕉の門人であり江戸での経済的支援者でもあった杉山杉風の屋号である鯉屋に由来し、特に芭蕉自筆資料は、伝来の確かな真蹟として注目されるコレクションです。他に、芭蕉生前に描かれた「奥の細道行脚之図」紀行文、句集、書簡などの自筆資料を収録します。

●第34卷 【解題】大橋正叔  
**芭蕉集 自筆本・鯉屋物** A4判横本・約二〇〇頁・本体予価三三、〇〇〇円

- 1 奥の細道行脚之図 元禄六年（二六九三） 許六画
- 2 野ざらし紀行（鯉屋物） 貞享四年（二六八七）
- 3 鹿島紀行（鯉屋物） 貞享四年（二六八七）
- 4 あつめ句（鯉屋物） 貞享四年（二六八七）
- 5 梅雀 両吟歌僊俳諧
- 6 「能家や」詠草稿
- 7 幻住庵記
- 8 癸酉紀行 許六自筆

▲ 34-12-10 「鉢た、き」発句自画賛



- 【書簡】
- 9 芭蕉書簡 宗七宛
- 10 芭蕉書簡 曲翠宛
- 11 芭蕉書簡 雪芝宛
- 12 鯉屋物
- 「ひとつめきて」発句短冊・「ほろほると」発句画賛・「葛の葉の」発句自画賛・「朝顔に」発句画賛・「あかあかと」発句自画賛・「みのむしの」発句画賛・「蓑虫説・蓑虫説・歳旦発句短冊集」鉢た、き」発句自画賛・「愚に闇ク」発句短冊・祝商山「はま弓や」発句詠草・夏三句詠草・初秋七日の雨星を弔ふ句文・「月雪と」発句短冊・素堂寿母七十七賀句・桃隣書簡・萩鹿図・「観音の」発句懐紙・芭蕉翁馬上吟図・芭蕉画竹図・述懐の句文・松飾自画賛・支考書簡・芭蕉脇息図・「はつ雪や」発句色紙・枯木鹿自画賛・蓑虫説跋草稿・四山瓢銘・富嶽遠望図・葡萄栗鼠図・稲穂図草枕句文・一輪牡丹図・鯉屋伝来預り品書（参考）